

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270700313		
法人名	(有)ケアサポー三沢		
事業所名	グループホーム赤とんぼ (フラワー棟)		
所在地	三沢市大字三沢字南山85-10		
自己評価作成日	令和4年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は、外に出て施設の周りを散歩し、気分転換していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地は広く、日光浴や安全に散歩できる他、季節の花々を鑑賞できる花壇や畑がある。種々の野菜の収穫を楽しむことができ、日常の食事にも提供されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和して、周知し共有ができるように取り組んでいます。	開設当初からの理念を目の届く玄関に掲示している他、毎日唱和する等職員間で共有している。職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も交流は殆どありません。	コロナ禍のため交流は難しい状況だが、以前は、地域の方とのサツマイモ掘りや家族会のバーベキュー、町内会のカラオケ大会やクリスマス会への参加、基地の方とのハロウィン等、多くの交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や認知症に関する相談等を行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価、外部評価の結果を委員の方々に送付しました。	コロナ対策を徹底して運営推進会議を開催しており、ホームの活動報告を行うと共に、メンバーからアドバイスや情報をいただき、ホームのサービス向上につなげるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	外部評価実施年度には「自己評価票及び外部評価結果」「目標達成計画」を提出して、報告しています。	市の介護福祉課担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとなっており、その都度アドバイスを受たり、情報提供を受けている。また、生活保護について相談する等、行政との連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、雨で濡れないようになっています。強風でなければ、散歩等を行っています。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、定期的に身体拘束対策委員会を開催している。不適切な言葉でのケアを発見した時には、皆で声がけをして「気付く、振り返る」ことを心がけ、繰り返さないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを発見した際は、皆で声掛けをして「気づく、振り返る」等の行動をすることによって、繰り返さないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している方はいませんが、学ぶ機会を持ち、理解を広げたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退居の際は、ご利用者や家族様等に不安を生じさせないように、退居先の情報提供を行う支援を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご要望箱を設置しており、また、別棟事務所に意見が上がる時もあり、対応しています。	意見や苦情等が出されれば、ユニット会議や職員会議、管理者会議等で検討し、速やかな対応を行う体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や管理者会議、ユニット会議で意見等を聞く機会を設けています。	ホームの運営方法や利用者の受入れ等、職員から出された意見は職員会議や管理者会議、ユニット会議等で検討して、反映させる仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	電子記録等も取り入れて、労働環境を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てていますが、新型コロナウイルスにより研修が中止となり、計画的に進んでいません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みはありません。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の相談があった時は、ご利用者や家族様に見学や面会を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用の相談があった時には、ご利用者の家族様に見学していただき、直接話を聞く機会を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他のサービス機関に移行する支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	忙しい時間帯には、食事の後片付けの茶碗拭きを積極的に手伝ってくださる場面が多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により、ご本人と家族様の関係が薄くなるので、日々の様子を1行日記にして送付し、情報共有に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度も、新型コロナウイルス感染症予防のため、外出を控えています。	コロナ対策を徹底して、家族や友人との面会を行ったりビデオ通話によるリモート面会を行う等、利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が孤立しないように「気まづい」場面で職員が間に入る等、緩和するようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の入居先に、情報提供シートを届けて、今までの生活状況を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて、ご本人のことを良く知っている家族様、関係者等から情報収集を行っています。また、生活の中でも情報収集しています。	職員は、利用者との日々の会話や行動、仕草から思いや意向を把握して、職員間で情報共有している。一人暮らしの場合、家族の関与が少ないため、居宅介護支援事業者から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のプライバシーに配慮して、話せる範囲で情報提供していただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化について、申し送りノートを活用して、職員に情報共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や緊急ユニット会議、また、家族様と相談して介護計画を作成しています。	主に家族から意向確認することが多く、職員の気づきや意見を反映させ、十分な話し合いを行い、利用者本位の具体的な介護計画を作成し、定期的にモニタリングを行っている。利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった場合は、改めてアセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や観察記録、センター方式D3シートを用いて記録して、体調の変化に気をつけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気分転換になるよう、晴天時には外に出て散歩をして、畑の作物や花壇のお花を見ていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用する体制は整っていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医を受診しています。職員も同行しています。	訪問看護師が週1回健康管理を行っている。受診結果は毎月手紙や電話で報告して、家族との情報共有を図っている。ホームでは受診専用の運転手が従事していることにより、安心して受診ができる体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日午前9時から、訪問看護師が健康観察を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師より、日々の様子や退院日等の情報を収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	入居契約時や見学時に「看取りを行っていないこと」「重度化した際の対応」について説明を行っています。	入居時に、予め急変した場合や重度化した時の対応を説明しており、協力医療機関との連携を図りながら支援する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成していますが、定期的な訓練は行っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について、夜間想定訓練を年2回実施しています。風水害の訓練は行っていません。	ホームの消防計画に基づいて、定期的に緊急通報訓練や避難訓練を行っている他、避難経路を確認している。また、災害時に備え、保存可能な食料や飲料水、防寒物品等を用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時にプライバシーの配慮が足りない場面があるので、改善していきたいと思っています。	利用者への声かけや対応について、職員の不適切な場面が見られた時は、職員会議で対応を検討する等、改善に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な働きかけや場面づくりの支援ができていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることがあり、特に入浴時の場面で職員の都合が優先される場面が多くあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、馴染みの美容院に出かけられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼力、嚥下力に応じて、食材の切り方や煮方等に注意しています。	献立は、代表者と管理栄養士資格を持つ管理者が作成している。利用者の嗜好や禁忌食の他、咀嚼力や嚥下力に応じて食形態を変える等、配慮をしており、職員が交替で調理して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水やお茶、また、大好きな飲み物等を把握して、摂取していただき、摂取量増加に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきやうがい、義歯の手入れ等、職員が声掛けをして一緒に行う等して、口の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎に声掛けをして誘導しており、サインを見極めてトイレへ移動し、失禁がないように支援しています。	利用者の排泄状況を記録して、排泄パターンや利用者の動向に応じて、トイレへ誘導して支援している。また、プライバシーの配慮や適切な排泄用品の使用等を適宜話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を朝食時に取り入れています。また、外歩きや(移動)廊下歩き(移動)を実施して便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間帯は、利用者の意向を取り入れている方もいます。	利用者の入浴時間や温度、順番等のこだわりを把握し、声掛けを工夫する等、浸かり過ぎに注意しながら入浴の支援をしている。また、利用者の状態に応じて、足浴や全身清拭等の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外に出て外気を浴びる、床に入る直前に足浴する、ホットミルクを飲んでいただく等の対応をして、心地よく眠れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理シートを作成し、在庫や種類、医療機関を把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	禁止食品について情報共有し、事故を防止して楽しく食事ができるよう援助しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防のため、支援できていません。	以前は、カラオケやソフトクリーム店、十和田湖、サクランボ祭り等に出かけていた。現在はコロナ禍のため、外出ができない状況が続いており、ホーム周辺を散歩したり、動画で観光地や祭りを見て気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は、行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様へ電話をしたり、手紙の受け取り支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールの窓から、季節毎の花や農作物を眺められます。	全館バリアフリーで、広々としたホールにテーブルやソファが配置されており、壁には季節感のある飾り付けがされている。また、利用者が明るく清潔な環境で、居心地良く過ごすことができる空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファを3人掛けや4人掛けにして、ゆったりと寛げるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく眠れるように、不快な臭いがしないよう換気に努めています。	入居前から使用していたり馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけを行っている。持ち込みが少ない場合等は、利用者の意向を確認しながら、職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面にシールを貼り、場所の確認ができるようにしています。また、トイレは入口付近にも目印を設置しています。		